

学校総合体育大会 代表者会議資料 ー審判部ー

1. 審判の協力について

審判活動に対する日ごろからの御理解・御協力に感謝いたします。

今大会も各地区から推薦していただいている審判委員の先生方に、主副審を勤めていただく予定です。現在出欠状況を確認中ですが、今大会は4日間開催(すべて平日開催)あり、三者面談や年次研修等で十分な審判員の確保が困難になることが予想されます。

必要数の審判員が確保できない場合は、参加チームの先生方に審判をしていただくことになります。その場合に備えて、長管・短管の笛、腕時計(できればストップウォッチ機能のついているデジタル)を必ずご用意ください。

参加チームの先生方に審判をお願いすることになった場合には、割り当てを当日キャプテン受付の際に配布いたします。

また、各地区で審判委員として協力してくださる先生がいらっしゃいましたら、審判部長まで連絡をお願いします。

審判部長 越谷市立大相模中学校 三浦 岳彦 連絡先 090-3408-0839

2. コートオフィシャル(生徒役員)について

・今回も開催地区から生徒役員は動員いたしません。つきましては、参加チームから試合にかかわるコートオフィシャルをお願いすることになります。

・なお、第1試合は第2試合の両チームから、第2試合以降は前の試合の負けチームとなります。

・コートオフィシャルはプロトコール開始までに記録席前に集合できるようご協力願います。

プロトコール時間:試合設定時刻11分前 ※設定時刻を過ぎた場合は試合終了後5分後

※競技設定時間

	7/22・23	7/29	7/30
	試合開始時刻	試合開始時刻	試合開始時刻
第1試合	9:45	9:45	9:45
第2試合	11:00	11:00	11:00
第3試合	12:00	12:00	12:30
第4試合	13:00	13:00	14:30
第5試合	14:00	14:00	
第6試合	15:00	15:00	
第7試合	16:00		

・スコアラー(1名)、アシスタント・スコアラー(2名)、ラインジャッジ(4名)、点示(2名)など、大会前にその役割について各チームでご指導願います。

・ラインジャッジとアシスタント・スコアラーについては「日本中学校体育連盟バレーボール競技部」のホームページに、「生徒役員育成マニュアル」が掲載されています。参考にしてください。

・セット間で生徒役員を極力交代しないよう願います。

3 審判上の注意事項について~別紙資料を参照してください。

令和7年度 学校総合体育大会兼全国・関東中学校体育大会埼玉県予選会
審判上の注意事項

審判部長 三浦 岳彦

- 1 今大会は、「2025年度(公財)日本バレーボール協会6人制競技規則」ならびに「2025年度(公財)日本中体連における6人制ルールの取り扱い」に則って行う。
- 2 キャプテン・トスは、試合設定時刻がある場合はその11分前に行う。それよりも遅れた場合または設定時刻のない場合は、前の試合の終了5分後に行う。
監督は記録用紙のチーム・メンバーを確認し、リベロ・プレーヤーの番号を所定の欄に記入した上でサインする。リベロ・プレーヤーの氏名は記録員が記入する。トス終了後、すみやかにラインアップ・シートを提出する。
- 3 試合開始時と終了後は、エンドラインに12名が整列し、ファーストレフェリーの吹笛とともにネットまで出てきて、ネットを挟んで相手チームと握手を交わす。チーム・キャプテンはファーストレフェリー・セカンドレフェリーとも握手をしてベンチに戻る。試合終了後の挨拶後、チーム・キャプテンは記録用紙にサインをする。監督も、感謝の意を表しファーストレフェリー・セカンドレフェリーに握手をする。
- 4 スポーツマンとしてふさわしくない行為はしないこと。(相手チームに対してのガッツ・ポーズや判定に対する非難や不正な態度など) 軽度の不法な行為については、チームに対して警告が与えられる。不法な行為に対する制裁は、その試合を通して累進的に取り扱われる。
- 5 試合中は、ベンチ・メンバーの服装等にも気をつけること。監督などの短パン、ランニングシャツは原則として認めない。また、ゲームに不必要な物の持ち込みは禁止する。また、マネージャーの服装はユニフォーム以外のものとする。
- 6 ルールについて
 - ①タイム・アウトは原則、監督のみ要求することができる。なお、2020年度よりルールの取り扱いが変更となり、タイム・アウトの要求が一般と同様になる。
 - ②選手交代は、交代選手が競技中断中に、コートに入る準備をして選手交代ゾーンに入ることで、選手交代の要求となる。そうでない場合の交代は認められない。複数組の選手交代を要求する場合は、連続して選手交代ゾーンに出向くこと。
 - ③本大会では熱中症対策として「給水のためのタイムアウト」を採用する。(競技要項 3-14)その際の取り扱いは以下の通りである。(日本中体連バレーボール競技部 競技委員会の資料から抜粋)
 - 1 各セット(第3セットを含む)において、リードするチームが13点に達したとき、30秒間のためのタイムアウトが自動的に適応される。その際、副審が吹笛をし、コートを退くよう促し計時する。ハンドシグナルは示さない。
 - 2 「給水のためのタイムアウト」は給水を目的とするものであり、その間選手はウォームアップエリア(付近)で給水を行う。またチームスタッフはベンチに座っているものとする。
(給水を行うか否かの判断は、選手本人の意思による。給水を行わなくても同エリア内に止まること。控えの選手も同様である。)
 - 3 第3セットは、13点でチェンジコートをした後に引き続き「給水のためのタイムアウト」となる。その際、ファーストレフェリー側を通ってコートを移動したチームの最後尾の選手がベンチ側のサイドラインを通過した時点で、セカンドレフェリーが吹笛をし、計時を始める。

4 正規の中断の要求やリベロプレイメントよりも「給水のためのタイムアウト」を優先する。正規の中断の要求やリベロプレイメントを行う場合は、「給水のためのタイムアウト」の後にその手続きをする。

*給水タイムは給水及び汗拭きを目的としているので、給水タイム中は次の点に注意すること。

プレーヤー:ウォームアップエリアにおいて給水することが出来る。モップをかけるためにコートへ入ることは許されるが、それ以外はウォームアップエリア付近にいることとする。ウォームアップエリアへは最短距離となるコースを通して移動する。

チームスタッフ:ベンチに着席すること。プレーヤーに対して戦術的な指示を出すことは出来ない。ただし、マネージャーは給水などの補助のため、ウォームアップエリアに行くことは認められるが、監督、コーチからの戦術的な伝言等をしてはならない。

*「給水のためのタイムアウト」後、選手がコートインしたら通常のタイムアウトの取り扱いと同様にする。

④【熱中症対策としての団扇使用】の取り扱いについて

ベンチマナーの観点により、現在まで団扇の使用を禁止してきた経緯がある。しかし、現在熱中症対策が必要不可欠な課題である。そのため熱中症予防の観点から、(公財)日本中学校体育連盟バレーボール競技部が主催する大会で「熱中症対策としての団扇使用」を採用する場合、次のように取り扱うこととする。

- 1 使用は、セット間・タイムアウト・給水タイムアウトのみとする。
- 2 使用場所はウォームアップエリアやベンチ周辺とする。
- 3 団扇の数には制限はないが、チームスタッフ及びリザーブ選手が保持することなく、ベンチもしくはウォームアップエリアで保管すること。
- 4 団扇の大きさには規定を設けないが、極端に大きなものは使用しない。
- 5 団扇にチームのロゴ等が記載されていても構わないが、装飾としての使用は認めない。

※1~5は、チームスタッフ及びリザーブ選手にも適応する。

⑤【昨年度から】ベンチスタッフについて

監督が試合中、自チームベンチ前のフリーゾーン内で、立ちながら歩きながら指示を出すことができる。立ちながら歩きながら指示を出す場合、監督はラインジャッジ(特にL2・L3)の判定の妨げにならないように気を付ける。これらの行動に関してはレフェリーが注意する。

⑥【昨年度から】タイムアウトに関する取扱いの変更について

- ⑥-1 タイムアウトに入ったら、コートから離れなくてはならない。ただし、その位置については制限されない。
- ⑥-2 タイムアウトは30秒間であるが、選手は、30秒を待たずにコートに戻ってもよい。ただし、タイムアウトの時間が短くなることはない。

⑦【今年度から】ボールのプレーについて

チームが2回目または3回目にヒットしたボールの全体または一部が許容空間の外を越えて相手フリーゾーンに行った場合は、ボールを取り戻すことはできない。ボールがネット垂直面を越えた時点でアウトとなる。

⑧【今年度から】サービスの許可について

- ⑦-1 ファーストレフェリーは両チームがプレーする準備ができて、サーバーがボールを持っていることを確認した後にサービスを許可する。

(注) 1 コート上に5人だけ、または7人の選手がいるときには6人になるよう、サービスのホイッスルの前に促す。もしファーストレフェリーがそのことに気づかずにサービスのホイッスルをした場合、およびラリーが始まったり完了した場合、ファーストレフェリーはそのことに気づいたら直ちに罰則無しにラリーをやり直さなければならない。

2 ポジション4にリベロがいる場合は、ファーストレフェリーはチームが正規の選手にリプレイメントするのをサービス許可のタイミングまで待つ。それでもリプレイメントが行われないう場合は、セカンドレフェリーを通してアシスタントスコアラーに確認後、リプレイメントさせ、その後遅延の罰則を与える。もしラリーが始まった場合、ポジショナルフォルトとして処置をする。

3 サービス許可のタイミングで、その他の不法なリベロリプレイメントが行われており、ファーストレフェリーが分かっている場合も、上記2と同様の処置を行う。

⑨【今年度から】スクリーンについて～ルール改定の目的は「フェアプレー」で行う

⑨-1 サービングチームの選手は、1人または集団でスクリーンを形成してサービスヒットおよびサービスボールのコースが相手チームに見えないように妨害をしてはならない。

⑨-2 サービスが行われるとき、サービングチームの1人または複数の選手が集団で腕を揺り動かしたり、跳びはねたり、左右に動いたりして、あるいは集団で固まって立ち、サービスヒットとボールのコースの両方をボールがネット垂直面に到達するまで隠すことでスクリーンとなる。サービスヒットまたはボールのコースがレシービングチームに見えるのであればスクリーンではない。

⑨-3 サービングチームの選手は、サービスボールがネットを越えるまで、手を頭より上にあげてはならない。意図的なスクリーンが疑われる場合、ファーストレフェリーはゲームキャプテンを通じてチームに注意することができる。

(注) 1 チームが意図してスクリーンを形成している場合や、プレーヤーが手を頭より上に上げている場合(頭を保護するために、頭の後ろに手を上げることは許される)、スクリーンの反則になることがある。

2 上記のようなケースをサービス許可前に気づいた場合は注意をする。また、サービス許可後に生じた場合はラリー終了後に注意をする。

7 ユニフォーム等の着替えについては、アリーナ以外の観客の目に触れない所で行うこと。

8 リベロの交代方法

(1)リベロの交代する場所について

リベロおよびリベロと交代する選手は、リプレイメントゾーン(チームのベンチ前のアタックラインとエンドラインの間のサイドライン)からコートに出入りする。

(2)交代方法について

①アシスタントスコアラーを生徒が行うことから、リベロリプレイメントが行われる際、交代する選手を分かりやすくするために、交代する2名がサイドライン上ですれ違うように指導する。その際、交代する選手同士が、手を挙げたり、つま先を揃えて一旦立ち止まったりする必要はない。

⇒*コート上の選手が5名になったり7名になったりしないようにする。

*エンドラインからのコートへの出入りはしない。

②試合開始前、ラインアップシート確認の際には、交代するリベロのみがリベロリプレイメントゾーンで待機していてもよい。

- 9 ゲーム中のワイピングはコート上の選手が行う。タオルを持っていないために、ワイピングに時間が必要となった場合は、遅延行為となる場合もある。タオルは複数枚用意しておく。
- 10 観客席以外のフロアで観戦している人からのタイムアウト中やセット間での指導は認めない。また、保護者からの生徒役員への暴言等がないように、チームで責任をもって指導しておくこと。
- 11 電子機器(スマホ・タブレット・PC・無線端末)等の使用は禁止されている。

(令和3年12月27日 日本中体連バレーボール競技部 競技委員会より)